

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

| | |
|-------|-------|
| 制作団体名 | オーラ J |
| 公演団体名 | オーラ J |

| 内容 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ まずは聴いてみよう 尺八について、構造や奏法などの簡単な説明をいたします。また、どのような音が出るのか少し演奏を聴いて頂きます。・ 本公演で共演する演目の指導 本公演で共演する演目の説明と準備をします。どういった指示の時に、どういった演奏(行動)をすればよいか、具体的に説明します。・ 楽器の鳴らしかた解説。 常時は尺八の鳴らし方体験(楽器体験)で、音が出る仕組みや、音を出すことの難しさを感じてもらう予定でしたが、エアリード楽器は未経験者では飛沫が飛びやすい状況になります。よって、コロナ対応版では子どもたち全体での尺八体験は行わず、奏者による吹き方の詳説や、尺八吹奏法の援用で、身近な物(コップやペットボトルなど)でも音が出せることを奏者が実演し、音の出る仕組みを解説します。 |

| タイムスケジュール(標準) |
|--|
| 1コマ 45-50分 標準では2コマ開催で調整するが、開始時間、1コマの長さなどは、受講人数や学校側のスケジュールなどで柔軟に調整します。 |

| 派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください |
|------------------------------|
| 主指導者1名、補助者3名で、派遣合計者数は4名 |

| 学校における事前指導 |
|--|
| 共演曲目では、「風の音」、「雨の音」、「風雨の音」を子どもたちに奏でてもらいます。演奏に用いるものは、手・紙・衣服など身近なものを基本としますが、可能であれば楽器などを使用していただいても構いません。子どもたちには事前に、「自然が発する音にどんな音があるか」、「風や雨はどの様に聞こえるか」、について考えてみるようにお話ください。具体的な共演方法はワークショップ内の解説で指導いたします。 |

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書【コロナ対応版】

| | |
|-------|-------|
| 制作団体名 | オーラ J |
| 公演団体名 | オーラ J |

| 演目 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・楽器の解説(尺八と、それ以外の日本の管楽器などを紹介 20分)・鹿の遠音 古典(解説込 10分)・鶴の巣籠 古典(解説込 10分) 休憩(10分) <ul style="list-style-type: none">・子供のためのポップスメドレー(解説込 10分)・ソネット(I-Vより) 三木稔 作曲(解説込 10分)・Doldrums IIIb ～尺八と聴衆のための協奏曲～ 山本和智 作曲 (児童・生徒との共演プログラム 20分) |

| 派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください |
|-------------------------|
| 出演者3名、スタッフ1名で、派遣合計者数は4名 |

| タイムスケジュール(標準) |
|---|
| ワークショップを同日開催の場合は、9:00「搬入・仕込・リハーサル」、10:30-12:30「ワークショップ」、13:30-15:00「本公演」、15:00-15:30「撤去」、16:00「退出」。 ワークショップを別日開催の場合は、11:00「搬入・仕込み・リハーサル開始」、13:30-15:00「本公演」、15:00-15:30「撤去」、16:00「退出」。 |

| 実施校への協力依頼人員 |
|----------------------|
| イス、テーブル等の借用のために1名程度。 |

演目解説

日本の伝統楽器である尺八は、古くから、自然と一体となる音色を持ち合わせていました。このコンサートでは、日本の風土に即した、日本固有の音色を感じてもらいたいと思います。

形態は独奏から三重奏までの尺八演奏を主としますが、一部では篠笛などの他の伝統管楽器も使用します。尺八本来の持つ豊かな音色と、迫力のある演奏を三人の尺八奏者が演奏します。また、鑑賞の補助として視聴覚資料(プロジェクター使用)を用いた解説を併用し、コンサートをわかりやすく進行します。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

子どもたちには、「DoldrumsⅢb～尺八と聴衆のための協奏曲～」という曲に参加してもらいます。難しそうなタイトルですが、参加方法は簡単です。この曲はもともと観客が参加して、舞台上の尺八と一緒に演奏し、楽曲を作り上げる形式になっています。観客は自然(風雨)の音を、リコーダー・尺八などの管楽器や、紙・クリアファイルなどの身近なもので発生させて演奏に参加します。指揮者の指示、尺八の演奏に合わせて演奏しますが、どのような音を出すかは各奏者(聴衆)に委ねられます。

事前のワークショップにおいて指示の見方や、演奏の方法を説明いたします。演奏する楽器も、リコーダーやハーモニカなどが用意できる場合はそれらを使用します。用意が難しければクリアファイルや紙を使用します。高学年はリコーダー、低学年は紙など混合にしたり、希望者には尺八を吹いてもらうなど、色々な形態に合わせて参加していただけます。

児童生徒とのふれあい

ワークショップでの指導を通じてのふれあいの他に、WS、本公演で時間が許されれば、司会者、演奏者によるトークや質問などによってふれあいを図ります。また学校側で時間的余裕があれば、個別に指導や質問を受ける時間も設定できます。